

研究課題： MRI 検査による、ミスマッチ修復遺伝子発現の欠損を伴う子宮体癌の特異的画像所見についての検討

実施責任者：	放射線医学教室	医員	南口貴世介
実施分担者：	放射線医学教室	教授	吉川公彦
	中央放射線部	准教授	高濱潤子
	総合画像診断センター	講師	丸上永晃
	病理診断学講座	教授	大林千穂
	病理診断学講座	診療助教	内山智子
	産科婦人科学教室	教授	小林 浩
	産科婦人科学教室	講師	川口龍二

研究目的：子宮体癌(しきゅうたいがん)患者の中で、Tissue Microarray(組織マイクロアレイ：様々な臓器の組織切片を1枚のスライドガラス上に複数個整列固定させたもの)による免疫染色の結果、ミスマッチ修復遺伝子発現の欠損を伴う子宮体癌と診断された患者のMRIを評価し、特異的画像所見を同定し診断の向上を目的とします。

研究意義：ミスマッチ修復遺伝子の生殖細胞系列の病的変異により起こる遺伝性疾患として、リンチ症候群が知られています。リンチ症候群は遺伝性大腸癌(いでんせいだいちょうがん)の一つですが、リンチ症候群の女性においては子宮体癌の頻度が大腸癌を上回るとも報告されています。しかしリンチ症候群の従来ガイドラインは大腸癌の発見に重きをおいているため、リンチ症候群関連子宮体癌の多くが認知されていないのが現状です。MRIからミスマッチ修復遺伝子発現の欠

損を伴う子宮体癌の可能性を示唆できれば、リンチ症候群の早期発見・早期治療に繋がることを期待されると考えています。

対象：研究対象者は当院産婦人科で平成 23 年 1 月～27 年 12 月の間に手術が施行され、病理組織学的に子宮体癌と診断された患者。対象者数は約 100 例です。

研究期間：この研究は、奈良県立医科大学の医の倫理委員会承認年月日から平成 31 年 3 月 31 日まで行う予定です。

研究方法：過去 5 年間、当院産婦人科で手術され、病理組織学的に子宮体癌と診断された症例を抽出します。パラフィン固定された子宮体癌の組織から Tissue Microarray を作成します。作成した Tissue Microarray にリンチ症候群に特異的な免疫染色(ミスマッチ修復遺伝子：MSH2, MSH6, MLH1, PMS2)を施行します。免疫染色の結果ミスマッチ修復遺伝子発現の欠損を伴う子宮体癌と診断された症例の MRI を評価し、有意と考えられるうる画像所見の検討項目を作成します。放射線診断専門医 2 名により、それぞれ画像所見の検討項目を評価し、有用性を見いだします。

当該研究に参加することにより期待される利益および起こりうる危険ならびに必然的に伴う心身に対する不快な状態について：対象患者様が受ける利益・不利益はありません。

個人情報の取り扱い：収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会などで発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

その他：この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。また、研究の対象となる患者さんに謝礼はありません。なお免疫染色を行った結果、ミスマッチ修復遺伝子発現の欠損を伴う子宮体癌と判明した患者さんにはその結果を個別にお伝えすることにしております。この研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。本研究は医の倫理委員会により承認されています。

上記の研究の対象に該当する患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合には、奈良県立医科大学附属病院 放射線医学教室までご連絡ください。

問い合わせ先：奈良県立医科大学 放射線医学教室 南口貴世介
連絡先 0744-22-3051(代表)、内線(3467)